

モモ新品種「白露」の省力栽培

表1 「白露」及び「清水白桃」の結実率(%)^z(岡山農研)

年次	白露	清水白桃
2015年	9.3	55.0
2016年	7.7	59.7
2017年	9.0	55.4

^z 平均的な側枝の結実率(%)

表2 予備摘果の有無が「白露」の果実重、糖度及び樹当たり収量に及ぼす影響^z(2017年)

処理区 ^z	果実重(g)	糖度(° Brix)	収量(kg/樹)
無予備摘果	411	14.4	169
予備摘果	399	14.5	167
有意性 ^y	n.s.	n.s.	n.s.

^z 両区とも摘蕾は行わず、予備摘果及び仕上げ摘果の程度は、それぞれ結果枝の長さ20cm及び40cmに1果程度とした

^y t-検定により、n.s.は処理区間に5%水準で有意差なし

開発のねらい

モモ新品種「白露」の結実率は、安定して1割程度です。そこで、この特性を生かし、摘蕾及び予備摘果作業を省いて、仕上げ摘果のみの着果管理とすることで、果実品質及び収量を維持しながらも、省力的な栽培を可能にしました。

新技術の概要

- 「白露」は「清水白桃」に比べて結実率が低く(表1)、摘蕾、予備摘果を行わなくても、結果枝の長さ20cmに1.2果程度の着果数となり、岡山県における一般的な着果量が確保されます。
- 予備摘果を省略しても、果実重、糖度や収量に差がありません(表2)。

活用場面

他の品種との組合せ栽培で、摘蕾や予備摘果の作業が重ならず、労力分散が可能です。